

1. 商品の安全 ～安全の理解・危険の回避～

概要	<p>「消費者基本法」で初めて明記された消費者の権利の中に、「安全が確保される権利」がある。消費者として、安全・安心な社会をつくるためには、この権利を正しく理解し、権利行使のためには消費者としての責務と役割が伴うことを自覚することが大切である。</p> <p>また、自らの安全を確保するためには情報収集、適切な選択、合理的な判断をすることが必要である。</p>	
指導目標	<ul style="list-style-type: none"> ・安全な暮らしを送るためには、自ら情報を求めるとともに、広告の内容をうのみにするのではなく、批判的な思考を働かせ、自分で考えて商品を選択するなど、消費者としての責務と役割があることに気づかせる。 ・商品選択や危険回避のために「表示」がつけられていることを知り、与えられた情報を読み解く力が必要であることを認識させる。 ・自主的かつ合理的な選択をするとともに、自分だけでなく周囲も安全な生活を送ることができるような知識、視点、能力を身に付けさせる。 	
指導計画	<p>[導入] 身近な消費者被害について事例を出し合う。</p> <p>[展開] 【健康食品(ダイエット食品)】【製品(カラーコンタクトレンズ)】広告などを見比べたり、健康被害発生の原因について考えたりする。表示・広告の特徴などを知り、その内容や必要とする情報が記載されているか確認する。</p> <p>[まとめ] 消費者としての安全が確保されるための権利・責任について確認し、消費者市民としての行動につなげられるようにする。</p>	
時間	学習内容・活動	指導上の留意点
導入	10分	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活で利用している食品・製品による健康被害・金銭的な被害などについて事例を出す。 ・ニュースで知ったものや自分の体験など、食品や生活用品に関するトラブルについて、できるだけ多くの事例が出るように自由に発表させる。
各ワークはいずれかを選択・組み合わせて使うことができます。		
展開	35分	<p style="background-color: #0056b3; color: white; padding: 2px;">健康食品(ダイエット食品) ワーク① 教材①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【ワーク①-①(1)(2)(3)】健康食品のイメージ、広告の特徴、摂取目的などについて意見を出す。広告で問題となった表示例は教材①-1参照。 ・【ワーク①-①(4)】広告や表示にデメリットが必ずしも表示されないことに気づき、自分の知りたいことが書かれているかを考える。 ・【ワーク①-②】教材①-2を参照し、健康被害の原因や摂取上の注意などを考える。 ・【ワーク①-③】不適切な広告を見つけたとき、消費者市民としての行動が社会を変えることにつながりうることを確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ※事前に新聞や広告などを準備させる。 ・持ち寄った新聞や雑誌広告、健康食品の袋などを見比べ、見やすさ、記載の内容などについて意見を出させる。 ・「健康食品」の広告や表示に必要な情報が記載されているかを確認し、記載内容の真偽を自ら判断して利用することが必要であることを認識させる。 ・具体事例を知ることによって他人事ではなく自分にも起こりうることを認識させる。業界マーク(JHFAマーク)も選択の目安になることを伝える。 ・改善に向けて行動することが社会に影響を及ぼすことを認識させる。

展 開	35 分	<p>製品(カラーコンタクトレンズ) ワーク② 教材②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教材②-1の事例を見て、カラーコンタクトレンズ装着での健康被害について確認する。 ・【ワーク②-①(1)(2)】教材②-2、3を見て健康被害が起こる理由、10歳代の被害当事者が多いことの原因を考える。 ・【ワーク②-①(3)(4)】教材②-4を見て、健康被害には深刻なものもあることを知り、健康被害にあわないためには何に気をつけて購入すべきかを考える。また、取扱説明書の使用方法を守ることの重要性も確認する。 ・【ワーク②-②(1)(2)】自分だったらどうするか、友だちから相談されたら、どうアドバイスするかを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事例を知り、自分にも起こりうることを認識させる。 ・購入時に注意するとともに、毎日の適切なケアが必要であることを認識させる。 ・自分や他人の被害を回復するだけでなく、公的機関や企業などに情報提供や苦情相談をするなどして声を上げることで、法改正や商品改善につながる可能性があることを認識させる。
	ま と め	5 分	<ul style="list-style-type: none"> ・安全を求めることは消費者の権利であり、消費者の権利行使のためには責務と役割が伴うことを理解する。 ・消費者被害の未然防止・拡大防止のために消費生活センターや企業に相談・情報提供することが重要であることを確認する。



こんな活用もできます

- ・消費者の安全について、「消費者基本法」の「安全が確保される権利」が基本になっていることを認識し、権利行使のために消費者が実践すべき責務と役割について考える……公民・家庭
- ・広告を持ち寄り、「景品表示法」に則った表示になっているかを考える……公民・家庭
- ・「○○を食べれば痩せる」など科学的根拠のないことを過大に信用する「フードファディズム」などの問題があることを理解する。また、誤った情報やデマが入り混じるインターネット情報に流されず、情報リテラシーを身に付けるには、何に注意して情報を入手すればよいかを考える……家庭・情報
- ・食品添加物、農薬、遺伝子組み換え食品などについて、メリット・デメリットを考える。国立健康・栄養研究所のウェブサイトから気になる成分について調べる……家庭
- ・事故情報データバンクシステム*のウェブサイトから「液体の入ったスマートフォンケースからの液漏れ」や「スポーツ用自転車の部品破損による転倒事故」「電子レンジやヘアドライヤーでの発火」など、身近な製品の使用時における事故についての事例を探し、注意点を考える……特別活動

* 消費者庁と独立行政法人国民生活センターが連携して運営